

1 単元名

聴き手の理解が得られるように話の展開や表現を工夫して発表しよう。

2 単元の目標

- (1) 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うことができる。〔知識及び技能〕 (1) イ
- (2) 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕 A (1) イ
- (3) 話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕 A (1) ウ
- (4) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

3 本単元における言語活動

集めた情報を資料にまとめ、聴衆に対して発表する。（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕 A (2) エ）

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。(1)イ)	①「話すこと・聞くこと」において自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。(A (1) イ) ②「話すこと・聞くこと」において話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫している。(A (1) ウ)	①聴衆に対する発表を通して、話し言葉の特徴を理解し、相手の理解が得られるよう、表現を粘り強く工夫する中で、自らの学習を調整しようとしている。

5 単元について

(1) 教材観

本単元は、プレゼンテーションにおける話の構成や表現を工夫する力をつけることを目指した単元である。「プレゼンテーション・パターン」を活用し、「聞き手の想像をかき立て新しい発想や発見を生み出す」ための秘訣を学びながら、自身の発表にも取り入れていくことを目指す。

授業前の教材で、「日常の中の非日常に目を向ける」ことについて書かれた文章を取り扱うことから、「日常の My discovery」をテーマに発表を行う。生徒の話す力を伸ばすとともに、探究的な視点も養っていききたい。

(2) 生徒観

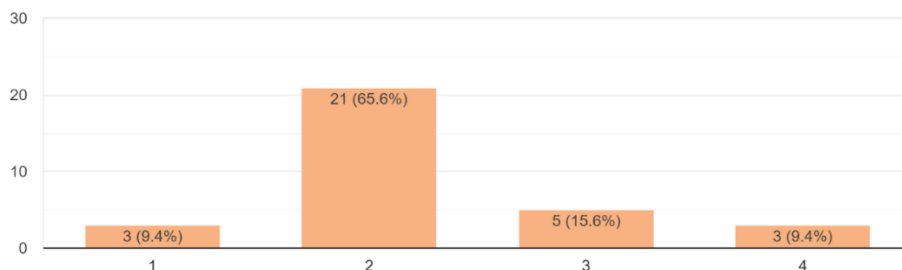
指導者が昨年度（1年次）から継続して授業を担当しているクラスである。様々な事情から中学校までの学習内容の理解が不十分な生徒が多く、自己表現を苦手としている生徒も多い。さらに、今年度の夏休み前までの授業で「分かりやすさ」や「自分の考えを的確に伝える」といった指導内容を中心に取ってきた経緯から、「伝える内容」については学ぶ機会が多かったが、話の構成や表現等、他者への伝え方の面では、指導が不十分だった現状がある。

授業実施前の事前アンケート（資料１）の結果を見てもわかるように、「話すこと」については、苦手意識を持っている生徒が多い。

資料１ 「話すこと」に関するアンケート結果（２年次生徒 32 名）

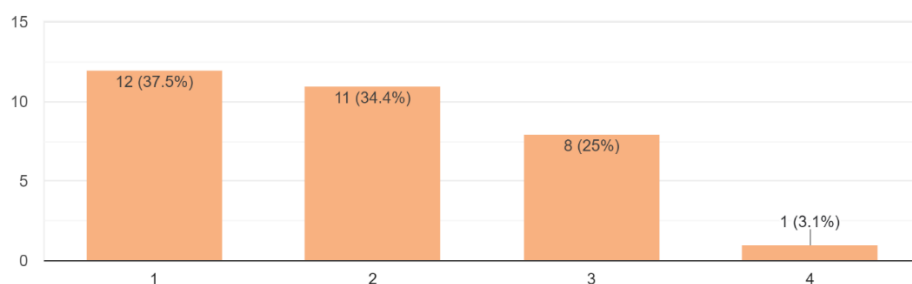
（１）人前で話すことが 1 「きらいだ」～4 「好きだ」の４段階 自己評価

(1)わたしは人前で話すことが
32 件の回答



（２）人前で話すことが 1 「苦手だ」～4 「得意だ」の４段階 自己評価

(2)わたしは人前で話すことが
32 件の回答



苦手な理由としては、経験の少なさを挙げる生徒が複数いるとともに、「間違えていないか不安になる」といった自信のなさがうかがえる回答も多かった。

今後卒業年次を迎えていくにあたり、生徒達が就職や進学のために人前で話したり発表したりする機会が増えてくることも踏まえ、人前で話す機会を授業で設け経験させると同時に、自信が持てるようにもしていきたい。

（３）指導観

プレゼンテーションを行う上での秘訣を生徒が認識し、活用していくための手立てとして、本單元では「プレゼンテーション・パターン」カードを活用する。「プレゼンテーション・パターン」は、2011年に慶應義塾大学SFC（湘南藤沢キャンパス）の井庭崇研究室のプロジェクトとして作成されたものである。創造的プレゼンテーションの経験則を言葉で表現したものであり、プレゼンテーション・デザインの視点や方法が34個収録されている。これを授業で活用することにより、共有しにくい「コツ」や「実践知」が他者と共有可能になるとともに、成功のパターンを自分自身の経験の中で獲得しやすくなることが期待される。

「話すこと」はその場限りのものであるという点で、「読むこと」や「書くこと」とは違った学習の難しさがあるが、生徒端末を活用し撮影や録音などをしながら、振り返りや評価にも役立てていきたい。

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価方法・留意点等
1	1	○単元の目標や進め方を 確認し、学習の見通しをもつ。 ・事前アンケートをもとに、話し言葉の特徴や人前で話す際に必要な要素について考えを共有する。 問い（課題） 話し言葉の特徴や、人前で話すときに大切な要素について理解しよう。 まとめ 話し言葉は音声ならではの特征がある。人前で話すときには聴き手に内容が伝わるだけでなく、聴き手の興味をひくような表現の工夫が必要である。	○			・事前のアンケート等を全体で共有しながら、話し言葉の特徴について理解できるようにする。 ・プレゼンテーション・パターンについて紹介し、次の時間の内容につなげられるようにする。 [知識・技能] ① 「記述の点検」<u>振り返りシート</u> ・話し言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえた振り返りの文章が書けているか点検する。内容が不十分な生徒については、コメント等で助言する。
	2 本時	目標：プレゼンテーション・パターンについて理解を深め、自身のプレゼンに活かせるようにする。 1 前時の復習 話し言葉の特徴やプレゼンテーションで目指すことについて確認する。 問い（課題） 実際のプレゼンをもとに、プレゼンテーション・パターンの要素について理解を深め、自分の発表にいかそう。 2 活用するプレゼンテーション・パターンの説明を聞く。 3 3～4人のグループで、適宜プリントにメモしながら、実際のプレゼンテーション動画を視聴する。 4 どのパターンが活かされているかをグループで対話しながら考えを交流し、ジャムボードにまとめる。 5 グループごとに出た意見をクラス全体で共有する。 まとめ プレゼンテーション・パターンの要素を理解し、自分自身のプレゼンに取り入れたいパターンについて考えて振り返りにまとめる。 6 振り返りシートを書く。				・プレゼンテーション・パターンでは「伝達」ではなく「創造」を目指していることを理解させる。 ・高校生がプレゼンテーションを行っている動画を2種類用意する。 ・グループごとにプレゼンテーション・パターンカードを活用しながら話すように促す。 ・1度視聴した後は、グループごとに端末で見返しながら話せるように準備をしておく。 ・活用するパターンの要素が一覧になったジャムボードをグループごとに使えるようにし、共有する際にも活用する。 ・自身の発表に使いそうなパターンや使いたいパターンを選び、それについて記述するような振り返りシートの形式にする。

2	3 4	○「日常のMy discovery」というテーマに基づいて、プレゼンテーションの計画書や発表用資料を作成する。 問い（課題） 話し言葉の特徴を踏まえ、プレゼンテーション・パターンの要素を取り入れながらプレゼンテーションの計画書や発表用資料を作成する。 まとめ 話し言葉の特徴を踏まえ、わかりやすさや表現に配慮して計画書を完成させる。	◎		・計画書にはプレゼンテーション・パターンの項目を意識できるような内容を盛り込んだ書式にし、計画書を作りながら展開や表現について意識できるようにする。 ・発表用資料については、スライドなどICT端末で作成することも可とする。 [知識・技能] ① 「記述の点検」計画書 ・話し言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、分かりやすさに配慮した表現などについて記入しているかを点検する。
	5 6	○ 計画書を基にグループで練習する。ICT端末で撮影し合い、それをもとに「プレゼンテーション・パターン」を使用しながら相互評価を行い、それらを踏まえて計画書を修正する。 問い（課題） グループ練習を通して、話の展開や表現がよりよくなるように計画書を修正しよう。 まとめ 相互評価した内容を踏まえ、話の展開や表現を工夫しながら、計画書を修正する。		○ ○	・ループリック評価表を生徒に提示しておく。 ・練習はグループごとに行わせ、練習の様子をICT端末で撮影し合い、記録することで、自分で見返したり、相互に批評したりできるようにする。 ・グループごとの練習の際は、計画書の観点に基づいて相互評価を行わせ、プレゼンテーション・パターンを用いて対話的にアドバイス等ができるようにする。それらを基に個々で計画書を修正するよう促す。 思①「記述の点検」計画書 ・自分の考えを明確にし、話の構成や展開を工夫している記述があるかを点検する。計画書の内容が不十分な生徒に対しては、三段構成を意識したりするように促す。 思②「記述の点検」計画書 ・相手の理解が得られるように、表現を工夫しようとしている記述があるかを点検する。
	7	○ 改善した計画書を基に、プレゼンテーションを行う。聞き手は、評価を行う 問い（課題） 計画書を基に、プレゼンテーション発表をしよう。 まとめ 他者評価や自身の動画の分析を通して、話の展開や表現を工夫して発表する。	◎		・発表本番はクラス全員の前で一人ずつ行わせる。また、発表本番もICT端末で記録し、後に自身で見返して振り返れるようにする。 ・聴き手が評価できるように評価用のFormsを用意し、発表者にフィードバックする形で提示できるようにする。 [思考・判断・表現] ①「行動の分析」発表の様子 ・主として発表本番の行動を分析するが、計画書の記述等も踏まえ、自分の考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫しているかを分析する。

				◎	[思考・判断・表現] ② 「行動の分析」発表の様子 ・主として発表本番の行動を分析するが、計画書の記述等も踏まえ、相手の理解が得られるように表現を工夫しているかを分析する。
3	7	○「当日の自身のプレゼン」について他者評価などを踏まえ振り返る。 問い（課題） プレゼンテーションの振り返りをしよう。 まとめ 振り返りシートに記入する。			・振り返りシートには、ループリックの自己評価を含めるとともに、相手の理解を得るために考察したことと実際に理解が得られたかどうかということについて、目標に沿って振り返れるようなシートの形式にする。 ・今後話したり書いたりする等の表現活動に向け、意識したいことについて記入できるようにしておく。 ◎ [主体的に学習に取り組む態度] ① 「記述の分析」振り返りシート ・聴き手の理解が得られるよう、表現を粘り強く工夫する中で、自らの学習を調整し、発表しようとしているかを分析する。